

講義概要

SYLLABUS

令和5年度

1年前期

理学療法学科

神戸リハビリテーション衛生専門学校

KOBE COLLEGE OF REHABILITATION AND HEALTH

講義名	情報処理学	
講師	高橋 優基	
学年・期	1年前期.2単位.30時間（講義）	
講義目標	コンピュータ活用能力、情報通信ネットワーク活用能力を身につけることを目的とする。授業では、毎時間実際にコンピュータを操作し、その使い方を修得すると同時に、各種アプリケーションソフトを使用して課題を作成する演習を行う。また、表計算ソフトを使用する過程で、各種統計処理の基礎知識も習得できるようにする。	
授業計画	第1回 コンピュータの使用方法、情報の保存・管理 第2回 文字入力と文書作成・保存、印刷機能 第3回 表の作成と図形の挿入 第4回 症例レポートの作成方法 第5回 文献を用いた文書作成の演習課題 第6回 計算式と関数の使い方 第7回 データの入力、編集 第8回 データの加工と表の編集 第9回 統計処理、グラフの作成・編集 第10回 スライド作成、印刷機能 第11回 図表・写真・動画の挿入 第12回 特殊効果の設定 第13回 スライド作成の演習課題 第14回 ビジネスメールの作成 第15回 ビジネス文書の作成	
履修上の注意	コンピュータは、見たり聞いたりしているだけでは上達しないので、自分で操作して慣れることが必要である。	
成績評価	授業中に作成する課題の完成度をもって評価する（ペーパーテストは実施しない）。単位認定者：高橋	
テキスト		
参考図書 その他	配布資料	

講義名 物理学

講師 加藤 巡一

学年・期 1年前期.2単位.30時間（講義）

講義目標 我々が日常的に観察したり体験したりする力と運動、あるいは医療機器など利用する道具の作用秩序を理解するためには、その背後にある物理現象を十分に理解する必要があります。そのため本講義では運動力学、波動力学、熱力学、電磁気の4分野をカバーし、「エネルギー」と「場」をキーワードとして基礎的な解説を行い、演習を通して物理的な物の見方、考え方を皆さんに会得してもらおうと思います。

授業計画	第1回	力のつりあいとベクトル、摩擦力
	第2回	等速度運動と等加速度運動、加速度・距離・時間
	第3回	運動の第一法則・運動の第二法則の意味と活用
	第4回	仕事と仕事率、位置エネルギーと運動エネルギー
	第5回	運動量と力積、運動量保存の法則
	第6回	円運動、角速度・向心加速度・向心力・周期
	第7回	モーメントと重心・ディメンジョン（次元）表記
	第8回	横波と縦波、波速・波長・振動数・周期
	第9回	熱と温度、絶対温度、ボイル・シャルルの法則
	第10回	融解熱と気化熱、熱力学の第一・第二法則
	第11回	コンデンサーの容量・接続・エネルギー
	第12回	電力と電力量、熱量と電力、電流と磁界
	第13回	交流・電磁波・X線の利用、放射線
	第14回	原子力発電
	第15回	問題演習・まとめ

履修上の注意 講義と演習

成績評価 授業態度、期末試験を総合的に判断する。単位認定者：加藤

テキスト 「そこが知りたい物理学」（共立出版）

参考図書
その他

講義名	生涯学習論
-----	-------

講師	日良 葉子	病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、生涯学習論を講義する。
----	-------	---

学年・期	1年前期.2単位.30時間（講義）
------	-------------------

講義目標	理学療法専門職として生涯にわたり自己研鑽を続け、知識・技術の向上に努める意義を理解する。また、主体的な学びが生涯学習に繋がると考え、学習の実践方法を学ぶ。
------	---

授業計画	第1回	生涯学習の歴史
	第2回	生涯学習の意義
	第3回	生涯学習支援
	第4回	文献の活用方法
	第5回	批判的思考
	第6回	自己研鑽の必要性
	第7回	学習習慣の定着化
	第8回	課題の明確化
	第9回	知識の統合
	第10回	知識の定着化
	第11回	知識の活用
	第12回	学習計画の立案
	第13回	学習成果の評価・活用
	第14回	キャリアパスの概念と活用、卒後のキャリアデザイン
	第15回	研究の必要性和意義

履修上の注意

成績評価	課題レポート、期末試験により総合的に判断する。単位認定者：日良
------	---------------------------------

テキスト

参考図書 その他	配布資料
-------------	------

講義名 医学英語

講師 前田 剛伸

学年・期 1年前期.2単位.30時間（講義）

講義目標 筋骨格系や神経系などの基本用語の英語表現を習得する。英文を和訳して、その内容を理解する。

授業計画

第1回	医学英語とは（運動と身体、リハビリテーション）
第2回	人体の基礎知識（断面と方向、関節可動域、主要関節と部位）
第3回	人体の構造について①（骨格系、脊柱、骨）
第4回	人体の構造について②（骨格系、関節、関節の種類）
第5回	人体の構造について③（神経系、中枢・末梢神経系）
第6回	人体の構造について④（神経系、自律神経系・副交感神経系）
第7回	人体の構造について⑤（筋肉系、表層筋）
第8回	人体の構造について⑥（筋肉系、筋肉の種類、靱帯及び腱）
第9回	英文和訳
第10回	疾患とリハビリテーション①（骨折）
第11回	疾患とリハビリテーション②（腰痛）
第12回	疾患とリハビリテーション③（関節炎）
第13回	疾患とリハビリテーション④（脊髄損傷）
第14回	疾患とリハビリテーション⑤（脳卒中）
第15回	疾患とリハビリテーション⑥（パーキンソン病）

履修上の注意 確認テストを実施します。

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：前田

テキスト 「リハビリテーションの基礎英語 第3版」（メジカルビュー社）

参考図書 配布資料
その他

講義名 医療倫理学

講師 伊藤 望美

学年・期 1年前期.2単位.30時間（講義）

講義目標 医療および理学療法、理学療法研究における倫理ならびに倫理原則について理解する。
理学療法士としての使命、役割と責務を理解し、対象者の尊厳を基軸とした理学療法の
提供・発展に関わる素地を養う。

授業計画	第1回	倫理を学ぶ目的	・生涯学習への準備（キャリアパス）
	第2回	自分を見つめる	・生涯学習への準備（キャリアデザイン）
	第3回	倫理規範とは①	・功利主義
	第4回	倫理規範とは②	・功利主義
	第5回	倫理規範とは③	・実存主義
	第6回	倫理規範とは④	・カント主義
	第7回	倫理規範とは⑤	・徳倫理学
	第8回	論理的思考力を身につける	
	第9回	生命倫理/医療倫理	
	第10回	医療倫理の倫理原則	
	第11回	自己決定権とは	・古代から現在の医療に関する歴史的背景
	第12回	理学療法を取り巻く倫理的課題の検討①（自己危害と他者危害）	
	第13回	理学療法を取り巻く倫理的課題の検討②（自己危害と他者危害）	
	第14回	職業倫理	・理学療法士職業倫理ガイドライン
	第15回	理学療法士の倫理観	・理学療法の質の保証

履修上の注意 ワークショップ形式の講義です。積極的な姿勢を期待します。

成績評価 授業態度、レポート課題、期末試験により総合的に判断する。単位認定者：伊藤

テキスト

参考図書 配布資料
その他

講義名	人間関係学	
講師	伊藤 望美	理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、人間関係学を講義する。
学年・期	1年前期.2単位.30時間（講義）	
講義目標	未知の課題に対して多様な情報を収集し、倫理的、道徳的、科学的根拠に基づいた創造性をもった課題解決能力の素地を養う。人間性豊かな自己形成を軸に心理・社会的背景を踏まえながら、人々と相互に信頼された関係を築き、ここが意思決定する。お互いの考えを認知・共感・理解し、有効な人間関係を築くコミュニケーション能力を養う。	
授業計画	第1回 人間関係論とは 第2回 理学療法士養成校の学生に必要なコミュニケーション 第3回 「自分を理解しよう」 第4回 コミュニケーション力を育む①（価値観） 第5回 コミュニケーション力を育む②（わかちあう・こたえる） 第6回 コミュニケーション力を育む③（話す・きく・伝える） 第7回 コミュニケーション力を育む④（話す・きく・観る） 第8回 社会人のマナーとしてのコミュニケーション 第9回 社会人としての総合力を身につける（論理パズル） 第10回 アサーショントレーニング① 第11回 アサーショントレーニング② 第12回 情報収集（PBL）① 第13回 情報収集（PBL）② 第14回 医療面接における基本的知識 第15回 医療面接での対話のしかた	
履修上の注意	ワークショップ形式の講義です。積極的な姿勢を期待します。	
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：伊藤	
テキスト	「理学療法評価を学ぶ」（編集工房ソシエタス）	
参考図書 その他	配布資料	

講義名	健康科学	
講師	藤原 聡	病院で理学療法士として約17年の勤務経験がある。その経験を活かして健康科学を講義する。
学年・期	1年前期.2単位.30時間（講義）	
講義目標	理学療法士は、対象者の健康に関連した諸課題に向き合うことが求められる。その基本をなす健康とは何かについて学ぶ。また、その健康と社会環境がどのように関係しているのかについて学ぶ。	
授業計画	第1回 健康の定義と概念について 第2回 健康問題の発生要因・疾病予防と生活習慣病の増進 第3回 人の心身と健康を知る（身体と健康、心と健康） 第4回 人の心身と健康を知る（遺伝と健康、適応と健康） 第5回 健康の基礎（環境と健康、栄養と健康） 第6回 健康の基礎（運動と健康、生活習慣と健康） 第7回 社会と健康（社会と健康、集団と健康） 第8回 社会と健康（経済と健康、法と健康） 第9回 科学技術と健康（情報技術の革新と健康） 第10回 科学技術と健康（交通・輸送の革新と健康、住宅と健康） 第11回 健康観と健康に関する社会のしくみ 第12回 自然災害と生活並びに健康との関連① 第13回 自然災害と生活並びに健康との関連② 第14回 自然災害と生活並びに健康との関連③ 第15回 自然災害と生活並びに健康との関連④	
履修上の注意	講義内容により講義教室が変更する可能性があるので、必ず週間時間割で確認すること。	
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：藤原	
テキスト	「テキスト健康科学 改訂第2版」（南江堂） 「災害リハビリテーション標準テキスト」（医歯薬出版）	
参考図書 その他		

講義名	解剖学 I		
講師	嘉戸 直樹	病院で理学療法士として約25年の勤務経験がある。その経験を活かして、解剖学 I を講義する。	
	日良 葉子	病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、解剖学 I を講義する。	
学年・期	I年前期。2単位。60時間（講義）		
講義目標	骨格系、関節と靱帯、筋系、神経系について、その成り立ちや構造、役割を理解する。		
授業計画	第1回	解剖学用語、組織	（日良）
	第2回	骨格系（頭蓋骨）	（日良）
	第3回	骨格系（脊柱）	（日良）
	第4回	骨格系（胸郭）	（日良）
	第5回	骨格系（上肢帯）	（日良）
	第6回	骨格系（自由上肢骨）	（日良）
	第7回	骨格系（下肢帯）	（日良）
	第8回	骨格系（自由下肢骨）	（日良）
	第9回	関節と靱帯（総論）	（日良）
	第10回	関節と靱帯（脊柱）	（日良）
	第11回	関節と靱帯（上肢帯）	（日良）
	第12回	関節と靱帯（自由上肢骨）	（日良）
	第13回	関節と靱帯（下肢帯）	（日良）
	第14回	関節と靱帯（自由下肢骨）	（日良）
	第15回	筋系（上肢帯の筋）	（日良）
履修上の注意	確認テスト、口頭試問を予定しています。		
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：嘉戸		
テキスト	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」（医学書院） 「めくって学ぶアナトミーカード The Muscle 筋肉編改訂版」（トライワークス） 「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」（南江堂）		
参考図書 その他			

講義名	解剖学 I		
講師	嘉戸 直樹	病院で理学療法士として約25年の勤務経験がある。その経験を活かして、解剖学 I を講義する。	
	日良 葉子	病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、解剖学 I を講義する。	
学年・期	I 年前期。2単位。60時間（講義）		
講義目標	骨格系、関節と靱帯、筋系、神経系について、その成り立ちや構造、役割を理解する。		
授業計画	第16回	筋系（上腕の筋）	（日良）
	第17回	筋系（前腕・手部の筋）	（日良）
	第18回	筋系（下肢帯の筋）	（日良）
	第19回	筋系（大腿の筋）	（日良）
	第20回	筋系（下腿・足部の筋）	（日良）
	第21回	筋系（体幹の筋）	（日良）
	第22回	筋系（顔面の筋）	（日良）
	第23回	神経系（総論：神経系の区分と構成、髄膜と脳室）	（嘉戸）
	第24回	神経系（脊髄の外形、横断面）	（嘉戸）
	第25回	神経系（脳幹：延髄、橋、中脳）	（嘉戸）
	第26回	神経系（小脳の外形と区分、小脳脚の内部構造）	（嘉戸）
	第27回	神経系（間脳・大脳半球）	（嘉戸）
	第28回	神経系（大脳半球）	（嘉戸）
	第29回	神経系（上行性神経路、下行性神経路・脊髄神経）	（嘉戸）
	第30回	神経系（脳神経・自律神経）	（嘉戸）
履修上の注意	確認テスト、口頭試問を予定しています。		
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：嘉戸		
テキスト	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版」（医学書院） 「めくって学ぶアナトミーカード The Muscle 筋肉編改訂版」（トライワークス） 「ネッター解剖学アトラス 原著第7版」（南江堂）		
参考図書 その他			

講義名 生理学 I

講師 菅野 武史

学年・期 1年前期、2単位、60時間（講義）

講義目標 人体の機能がどのように調節されているかについて理解する。生理学 I では、骨格筋収縮、運動調節、感覚などの動物機能を中心に理解する。

授業計画	第1回	ホメオスタシス
	第2回	体液区分と電解質組成
	第3回	細胞の構造
	第4回	細胞内外の物質移動
	第5回	静止電位の発生機序
	第6回	活動電位の発生機序
	第7回	活動電位の性質
	第8回	神経筋接合部の興奮伝達
	第9回	興奮伝達の調節
	第10回	骨格筋の興奮収縮連関
	第11回	心筋の興奮収縮連関、収縮の種類
	第12回	筋収縮力学、ATP供給系
	第13回	ATP供給系、速筋と遅筋
	第14回	反射弓と伸張反射
	第15回	Ia抑制、 α - γ 連関

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：菅野

テキスト 「生理学テキスト 第9版」（文光堂）

参考図書
その他

講義名 生理学 I

講師 菅野 武史

学年・期 1年前期、2単位、60時間（講義）

講義目標 人体の機能がどのように調節されているかについて理解する。生理学 I では、骨格筋収縮、運動調節、感覚などの動物機能を中心に理解する。

授業計画	第16回	その他の反射
	第17回	皮質脊髄路と錐体路障害
	第18回	錐体外路障害、感覚の性質
	第19回	触圧覚、温度覚、痛覚
	第20回	固有感覚、後索路、脊髄視床路
	第21回	ブラウンセカール症候群、味覚
	第22回	嗅覚、聴覚（音の性質）
	第23回	聴覚（伝音、感音）
	第24回	前庭感覚、視覚（眼球の構造）
	第25回	遠近調節、光受容
	第26回	光受容、光の中枢経路
	第27回	大脳皮質の機能局在
	第28回	大脳辺縁系、視床、視床下部
	第29回	脳幹網様体賦活敬、脳波
	第30回	睡眠、小脳の運動調節

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：菅野

テキスト 「生理学テキスト 第9版」（文光堂）

参考図書
その他

講義名 臨床心理学

講師 森本 兼司 病院で精神保健福祉士として約23年の勤務経験がある。その経験を活かして、臨床心理学を講義する。

学年・期 1年前期。1単位。30時間（講義）

講義目標 本講義では、さまざまな心の問題に対処するための臨床心理学の理論を学ぶことを通じて、自分自身や他者の心に対して、新たな視点を獲得することを目的とする。また、ヒトのこころの所在を明らかにし、その機能の概説を行う。

授業計画 第1回 著名な心理学者と業績①
 第2回 著名な心理学者と業績②
 第3回 心理アセスメント①
 第4回 心理アセスメント②
 第5回 心理アセスメント③
 第6回 心理療法①
 第7回 心理療法②
 第8回 心理療法③
 第9回 障害受容の心理・記憶
 第10回 防御機制①
 第11回 防御機制②
 第12回 転移・逆転移、ほか
 第13回 心理の発達①
 第14回 心理の発達②、ほか
 第15回 まとめ

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：森本

テキスト 「リハベシック 心理学・臨床心理学」（医歯薬出版）

参考図書
その他

講義名	公衆衛生学		
講師	清水 宏泰 河野 令 中山 紳	病院で医師として約23年の勤務経験がある。その経験を活かして、公衆衛生学を講義する。 病院で医師として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、公衆衛生学を講義する。 病院で医師として約28年の勤務経験がある。その経験を活かして、公衆衛生学を講義する。	
学年・期	I年前期. I単位. 30時間（講義）		
講義目標	医療は健康増進からリハビリテーションまでを含む包括的概念であることを認識するとともに、予防医学の重要性を理解する。人間を取り巻く環境問題と疾病の動向およびその予防対策について理解する。		
授業計画	第1回	衛生学・公衆衛生学序論	（清水）
	第2回	主な疾病の予防	（清水）
	第3回	母子保健	（河野）
	第4回	高齢者の保健・医療・介護①	（河野）
	第5回	高齢者の保健・医療・介護②	（河野）
	第6回	学校保健	（河野）
	第7回	地域保健と保健行政	（河野）
	第8回	保健医療福祉の制度と法規	（河野）
	第9回	保健統計	（中山）
	第10回	産業保健	（清水）
	第11回	環境保健	（清水）
	第12回	疫学	（中山）
	第13回	疾病予防と健康管理	（中山）
	第14回	精神保健・国際保健	（清水）
	第15回	国家試験対策	（清水）
履修上の注意			
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：清水		
テキスト	「シンプル衛生公衆衛生学 2023」（南江堂）		
参考図書 その他			

講義名	チーム医療論		
講師	日良 葉子	病院で理学療法士として約20年の勤務経験があり、回復期病棟に必須のチーム医療を経験した。その経験を活かして、チーム医療論を講義する。	
	水流 啓子	病院看護師として45年の勤務経験があり、看護管理経験者として25年、医療安全管理者10年の経験を活かしてチーム医療論を講義する。	
	佐々木 奈緒	施設で介護福祉士として約26年の勤務経験がある。その経験を活かして、チーム医療論を講義する。	
	藤野 由佳	病院等で作業療法士として約19年の勤務経験がある。その経験を活かして、チーム医療論を講義する。	
学年・期	1年前期. I 単位. 30時間（講義）		
講義目標	リハビリテーションチームに関わる職種の専門性について理解し、多職種連携における理学療法士の役割を理解する。		
授業計画	第1回	地域包括ケアとチーム医療	（日良）
	第2回	作業療法概論	（藤野）
	第3回	地域における作業療法	（藤野）
	第4回	介護保険による住宅改修	（藤野）
	第5回	福祉関連機器・用具	（藤野）
	第6回	自助具作成のプロセス	（藤野）
	第7回	作業療法士が行うレクリエーション	（藤野）
	第8回	看護師の役割とスタンダードプリコーション	（水流）
	第9回	リハビリテーション実施時に留意すること	（水流）
	第10回	医行為と理学療法士が吸引を行える範囲について	（水流）
	第11回	喀痰吸引演習（口腔・鼻腔）	（水流）
	第12回	喀痰吸引演習（気管カニューレ）	（水流）
	第13回	介護職の役割と高齢者の理解	（佐々木）
	第14回	チームカンファレンスの重要性	（佐々木）
	第15回	事例検討（アセスメント力と背景を読む力）	（佐々木）
履修上の注意			
成績評価	課題の提出、完成度を総合的に評価する。単位認定者：日良		
テキスト			
参考図書 その他	配布資料		

講義名	社会福祉学	
講師	松原 宏樹	病院で社会福祉士として約23年の勤務経験がある。その経験を活かして、社会福祉学を講義する。
学年・期	1年前期.1単位.30時間（講義）	
講義目標	社会福祉とはどのような学問なのか。また、どのようにして発展し現在までに至っているのか。それらを総合的に学ぶことで理学療法士としての業務に活かせるような知識を習得する。医療施設や社会福祉施設の現場に眼を向けると、そこには日々の業務を通して患者やその家族などからさまざまな質問や相談を受けることも多くある。そのような際に、対人援助の基本姿勢を保持でき、社会福祉に関する諸制度などの概要を知っていれば、患者やその家族にとって大変心強い存在になる。ここに、保健医療従事者が社会福祉を学ぶ大きな意義がある。近年では、福祉専門職と保健医療従事者などが協働するチームアプローチが欠かせなくなっている。よって、今後の社会福祉の動向にも対応した人材になるための基本知識を習得する。	
授業計画	第1回 社会福祉とは 第2回 日本の社会福祉の歴史① 第3回 日本の社会福祉の歴史② 第4回 社会保障制度の社会福祉を展開する組織 第5回 子ども福祉① 第6回 子ども福祉② 第7回 障害者福祉・高齢者福祉 第8回 低所得者福祉① 第9回 低所得者福祉② 第10回 精神保健福祉① 第11回 精神保健福祉② 第12回 精神保健福祉③ 第13回 認知症介護 第14回 相談援助の目的と方法ーソーシャルワークの視点からー 第15回 総まとめ	
履修上の注意		
成績評価	試験、課題レポート・ノート1)、授業態度2)を総合的に評価する。 1)は加点材料、2)減点材料になる場合がある。単位認定者：松原	
テキスト	「コメディカルのための社会福祉概論 第5版」（講談社）	
参考図書 その他		

講義名 リハビリテーション概論

講師 黒部 正孝 病院で理学療法士として約5年の勤務経験がある。その経験を活かして、リハビリテーション概論を講義する。

学年・期 1年前期. I単位. 30時間（講義）

講義目標 疾病予防や健康管理における理学療法のあり方について理解する。理学療法士に関わる各種法規ならびに関連職種の資格法について理解する。

授業計画 第1回 リハビリテーションの歴史
 第2回 ユニバーサルデザインとノーマライゼーション
 第3回 リハビリテーションとは
 第4回 個別指導と集団指導
 第5回 ICFとICIDH
 第6回 個人情報の管理
 第7回 医療法とコンプライアンス
 第8回 高齢者体験
 第9回 車椅子体験
 第10回 体験発表
 第11回 マップ作成
 第12回 バリアフリー
 第13回 社会保障制度
 第14回 医療法と関連職種の法律
 第15回 まとめ

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：黒部

テキスト 「学生のためのリハビリテーション医学概論 第3版」（医歯薬出版）

参考図書
その他

講義名	理学療法概論	
講師	嘉戸 直樹	病院で理学療法士として約25年の勤務経験がある。その経験を活かして、理学療法概論を講義する。
学年・期	1年前期、2単位、30時間（講義）	
講義目標	理学療法の概要、歴史、役割、過程、職域、各病期における意義や役割について理解する。理学療法士の職能や教育課程について理解する。理学療法学としての研究について理解する。	
授業計画	第1回 理学療法の概要（映像教材で理学療法の実際を確認） 第2回 理学療法の概念と歴史（障害モデル、語源と定義、発展の歴史） 第3回 理学療法士の法律、理学療法士及び作業療法士法についての解説 第4回 理学療法の意義と役割（職能）、各病期における意義と役割 第5回 理学療法の対象（障がいの定義、臨床における理学療法の対象） 第6回 理学療法の方法（理学療法の過程と手段、運動療法と物理療法） 第7回 理学療法士の組織（医療施設の組織と管理、PT協会の組織と活動） 第8回 理学療法士の教育課程（教育理念と目的、教育制度） 第9回 学生にもとめられるもの（クラスのスローガンとしてまとめる） 第10回 関連法規、医療保健分野の理学療法（理学療法の職域1） 第11回 地域リハと理学療法（理学療法の職域2） 第12回 医療事故とリスクマネジメント、個人情報の管理 第13回 記録・報告書の書き方 第14回 EBM（EBPT）、研究法 第15回 まとめ	
履修上の注意	基本的にテキストに沿って授業をすすめるので予習をしておいてください。一部の授業（1・14・15）は映像やプリントを用いて授業をおこないます。	
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：嘉戸	
テキスト	「理学療法学テキストⅠ 理学療法学概論 第4版」（神陵文庫）	
参考図書 その他		